

# ■連載コラム 『美味しいお弁当を持って、尾瀬に行こう!』

尾瀬から学ぶスローライフ

取材協力=湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会 (新潟県魚沼市)

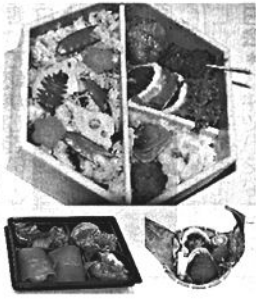
日本一の米どころとして有名な魚沼市では、今年の春に「尾瀬弁当コンテスト」が開催されました。尾瀬を訪れるハイカーにとってお弁当は必需品であり、何よりの楽しみ。今回のコンテストでは、尾瀬の花々に負けないくらい魅力あふれるお弁当が応募されたようです。そこで、コンテストについて、主催者である湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会会長の富永三千敏さん、同食彩部会部会長の上重礼子さん、尾瀬ハイキング部門最優秀賞を獲得した田澤歩さんにお話を伺いました。

## 魚沼・湯之谷温泉郷の魅力発信

「湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会は、大湯栴尾又温泉、折立芋川温泉、奥只見・銀山地区の3地区が協力しながら地域の活性化を図ることを目的に、平成18年に結成された委員会です。地元観光関係者や県・市などで構成されています。活性化委員会食彩部会ではコシヒカリをはじめとした地元の食のことでついて見直し、PRしていくことで地域振興を図ろうと活動していて、その一環として、食の面から魚沼や湯之谷温泉郷のことを多くの方々に知

ってもらうために尾瀬弁当コンテストを開催しました」とコンテストに対する強い思いを話す富永さん。続いてコンテストの概要を伺いました。

「尾瀬弁当コンテストは、尾瀬などの山に持つていくことができる弁当をテーマにした「尾瀬ハイキング部門」と魚沼市内の観光のお供となり魚沼の魅力を引き立てる弁当をテーマにした「一般部門」が設けられ、どちらの部門もできるだけ魚沼の食材や伝統料理を使用することになっています。応募は13点あり、どれも甲乙付け難いお弁当ばかりでしたが、各部門から最優秀賞と優秀賞が1点ずつ選ばれました」



▶コンテストに入賞したお弁当

## 地

域の味わいを感じて、午後もしっかり歩こう!

コンテストに応募したきっかけを

田澤さんへ伺った。

「応募したお弁当は、コンテストの前から販売していたお弁当をベースにしたものです。このコンテストをきっかけに、地元の方々に自分が作ったお弁当を評価してもらいたく応募しました」

気になるお弁当の内容を伺った。「魚沼産コシヒカリとネマガリダケの山菜ごはん、奥只見名物の山ウドのキンピラ、海から離れた魚沼地域で重要な乾物として食される身欠き鱈の煮物、サクラマスのフライ。いずれも魚沼で採れる食材や伝統料理を用いることを大切にしました。地域の顔がみえるお弁当」を作りたかったからです。特徴がないお弁当が増える中で、このお弁当には普段感じることができない地域の味わいが詰まっているので、是非多くの皆さんに食べてほしいですね」と話す田澤さん。

○田澤さんのお弁当は10個より受付、1週間前までの予約販売を行っています。お茶付きで1個1,000円。

▶田澤さんのお弁当に関するお問い合わせ先

奥只見観光(株)

0256795075



▲是非尾瀬に持って行きたい多菜なお弁当(田澤さんのお弁当)【尾瀬ハイキング部門最優秀賞】

最後に、上重部会長にコンテストの今後について伺いました。

「尾瀬弁当コンテストの作品を通じて、魚沼の味を多くの方々に味わっていただきたいのですが、生産や販売において課題があり、商品化は今後の検討課題です。しかし、今後も尾瀬弁当コンテストを開催しながら、魚沼や湯之谷温泉郷の魅力を発信していきたいです」



▲左から田澤さん、富永会長、上重部会長